

2025.7.10

No1

静かな退職

静かな退職という問題がアメリカから日本に広がっている
そうです。「退職」といっても、仕事を辞める訳ではありません。

最低限の仕事をして、会社から帰る、という意味のようです。

「Quiet Quitting」の和訳が語源となっているそうです。

一見、とても従順で良さそうに感じる人でも、その根本には、

「出来るだけ働かず、出来るだけ多く給与をもらいたい」という考えが強い
言われた事だけしかやらないそうです。現在日本でも政府からすべての会社
に求められている生産性の向上の真逆を行く精神です。

仕事では自分の能力やエネルギーを出来るだけ消費しないようにして、
退社時間を待ちます。何かを頼まれた時は、「聞いていません」と意識的
にやらずに断わるのだそうです。なぜそうやるのか不思議ですが、

「自分個人の生産性を高める」為に、同じ給与を出来るだけ働かず、貰う
のが良いと考えているようです。働きに対する単価を上げる訳です。

このアメリカ式の考えが、日本の若者に浸透し、増加しているのが社会問題
として浮き上がっているのです。今は人材が不足しているので、このような働き方
でも職を失う事もなく、仮に失ってもすぐに次の仕事が見つかるので、行動を
変えないのです。皆さんはどう思いますか？自分の事だけ考えるとその時
は得をしている気持ちには、たとえ長い目で見ると損をしていると思いませんか？
最小限のエネルギーを使ってお金を稼げたとしても、淡々と働いている時間は
奴隷と同じです。そして、仕事を楽んでいる人には敵いません。

使ったエネルギーと収入だけを比較するのではなく、同じ収入でも、努力を苦痛と
感じず、やり甲斐を感じ、楽しく働いている時間が長い方が人生で得を
していると思いませんか？

昭和を駆け抜けてきた人達は、「24時間働けますか？」というキャッチコピー
が栄養剤の宣伝で使われる事もあるほどで、出来るまでやる、諦めはい、と叩き込まれ
終わるまでは帰らないのが当たり前と教えられました。これは命を削る働き方
で、体や心を壊す人が多く出たので、働き方改革が制定されました。

このようにするのはいいかもしれませんが、何事も打ち込んで行かう時、上達し達成感
と、自分の成長がハッキリわかるので楽しくなっています。

2025.7.10

No2

にだ。「静かな退職」= 怠け者の人達とはならないようにも気をつけたいと思います。そこには長所もあると思います。

「言われた事だけちゃんとやる」人は、それを定時までに効率良く、無駄を省いた動き方でこなせる人かもしれません。できるだけの時間・エネルギーで同じ仕事を行うには工夫も必要な筈です。また、同じ仕事のルーティンを楽しんで繰り返す事ができる人も必要です。長年安定して持ち場を守ってくれるのがありがたい事です。そのような人達から生産性を高める為のヒントをいただきつつ、仕組みを変えるならば、ひとりひとりの価値を高める事に繋がり、知識・技術・人間性を磨き続けて行きたいと思います。

さて、4~6月で目標に対してどのような結果が出たでしょうか。

到達できた人、出来なかった人、それぞれ何故そうなったのか? とよく考えて改善点を探す事、成功の秘訣をつかむ事は大切です。

一定の仕事を一一定の時間内に終わらせる事も目標にできるかもしれませんが、自分ではどうしても残業しないと終わらないのに、別の店では自分より多い仕事量を残業せずに終わらせて帰っているならば、その人のやり方を真似るのが近道です。「早く帰れ」と言われるから、にだ頑張るのは改善ではありません、それで帰れるならとくに残業は減っています。時間は等しく与えられていますから、賢く使わないと垂れ流しになり、プライベートの時間が食われてしまいます。

「静かな退職」の別の長所は、「ワークライフバランス」がしっかりと取れている事です。定時までに終わらせて帰るという強い意識は、時間の感覚が鋭くなり、仕事のペースコントロールが出来るようになります。その為、熟練度を高めていく部分も自然と見付かるでしょう。

社会問題となっている静かな退職でも、その良い部分にフォーカスすれば、ひとの足を引っ張る働き手にはならないで済むかもしれません。

基本的な事ですが、働くという事は、自分の提供した労働と交換でお金が払われます。就職する時に交わす雇用契約は、その契約書です。

貰う給与が増えるならば、それに見合った価値を提供する責任が労働者にはあるのです。時々、昨年と比べてどれくらいプラスして価値を生み出しているだろうか?

と自己吟味してみると良いかもしれません。そしてそれぞれの持ち場で生き活働き、ワークライフバランスもとって欲しいと思います。熱意と真摯な気持ちでサービスを提供し続けるならば、選ばれる人、選ばれる会社に近づいて行くのではないのでしょうか。

DUSKIN
喜びのタネをまこう